

過去に続いていた差別が現在もなお同じ形で続いている。

ハンセン病の差別はなくならないと思うけど、まずは自分から差別をなくしていこうと思いました。また差別をしている人がいたら注意をすることができる人になりたいと思いました。

ハンセン病問題を、自分にも起こるかもしれない事として考えてみる

これから忘れないようにすることと、差別を無意識のうちにしてしまわないように気をつけたい。社会復帰したハンセン病回復者さんが今まで経験したことを踏まえて、どのような気持ちで今を生きているのか知りたいと思った。

ハンセン病の歴史は次の世代へと伝えていかないと行けない。

自分にも起こるかもしれないことを覚えておき、今日学んだことと、未来へ伝えつつけていこうと思った。自分にはどのようなことができるかを考えたとき、差別をしないなどのことが考えられる。もし自分がそういうことをされたときの気持ちを考え、行動していきたい。

家族とも関係が取り戻せないということが印象に残った。

ハンセン病の話を書いて、見た目や噂だけでその人を判断するということをやめようと思った。また、誤ってやってしまい、指摘されたことなどは素直に認め、謝ろうと思った。このような差別が早くなくなってほしいと感じた。

ハンセン病になった人は、差別や家族に会えないなどの、つらい思いをいっぱいしてきて、それを乗り越えられる力がすごいと思った。

ハンセン病に限らずに他人事だと考えず自分にもおこるかもしれないと考えたり、自分がされたらどうかを考えて差別しないようにしていこうと思った。

家族ともハンセン病について話してみたいと思った。

ハンセン病の歴史は次の世代へと伝えていかないと行けない。

ハンセン病の問題がもうおこらないように先入観や偏見で何かを言うのはなくしたい。患者さんの幸せは患者さん自身が決めることだと話してくださったところが印象に残った。

学んだことを未来へ伝え続けることに取り組みたい。

ハンセン病のことをある程度知っていたけど、もう少し詳しく聞いてみると今でも療養所に800人以上の人が入っていることがわかりました。裁判で勝ったけどまだ自由を手に入れていないことをしりました。なので、今でも差別は残っているんだと驚きました。

ハンセン病患者の方々には理不尽に差別をされていたと知ってとてもつらかったらうなと感じた。

今の日本でも病気に関わらず差別はあるから、差別をなくそうとすることよりもまずは自分が正しい行動は何なのかを考え、実際に行動することが大切だと思った。

各県での隔離競争が印象に残りました。理由はハンセン病当事者の気持ちを全く考えられてなくて酷いなと思った事と、今は差別はしてはいけないと言っているのに、国が自ら差別のようなことをしていて衝撃が走ったからです。

ハンセン病について治る病気なんだよと、差別している人や、まだハンセン病を知らない人に伝えていきたいと思った。

自分にも起こりうることだな、と他人事に考えずこれされたら嫌だな、とか相手の立場に立って今後絶対に差別が起こらないようにしていきたいと思いました

これから、どんな人でも見た目や偏見などで差別しないようにしたいと思った。すべての人の人権を尊重してそれぞれを認めあって過ごすことが大切だと思った。

ハンセン病になって両足が義足、料理を作ったりすることで精一杯だったけど、高さ40cmにも及ぶ陶芸品を作り続けたことが、自分だったら絶対作ろうと思わないし、体を動かすのも辛いなか、必死に自分の理想の作品を作ったと考えると本当に凄いと感じた。

ハンセン病になった人たちは、ハンセン病になつたくなつたわけではないし、療養所に行かなくて行った人もいないと思うので今後同じようなあやまちを犯さないように未来に伝えていきたいと思ひました

これからは機会があれば長島愛生園、邑久光明園についても知りたいなと思った。

隔離されるだけでなく、働かされたり家族も差別されたこと。完全に治ったとしても元のように家族に戻れないのはとても辛いことだと思った。

自分にも起こることだと考え、自分になにかできることがあれば行動を続けたい。

差別をしている人はたまたまの自分の気持ちの押し付けで、差別されている側は心で誰に差別されているかもわからないから不安な気持ちがずっと残ってしまうということが印象に残った。ハンセン病のことだけでなく他のことでも差別をするのはよくないことだから気をつけないといけなと申した

差別された側の気持ちになってみること。

「自分たちの時代じゃないから関係ない」という考えは無責任だと言うこと。

もしもまた再流行することがあったら、自分に何ができるのか、考えなければならない。

各県でどれだけ早く患者を隔離できるか競わせたことが印象に残った。国が敵という状況で患者は苦しい思いをしたと考えた。

差別問題についてまずは自分が知っていこうと思った。人権・差別問題を知ったり、それを伝えたりすることが今の自分にできる取り組みだと考えた。

今日話を聞いたことがハンセン病問題の全てじゃなくて、もっと問題になったことやそのときのハンセン病患者さんの苦労があると思うから知りたい。行ける機会があれば、療養所や資料館にも行ってみたいと思った。

こうした激しい差別の中でも、回復者の人たちは、自分にも生きる意味があること。ということだが印象に残りました。理由は差別されている中でも強く生きている回復者の人はとてもかっこいいと思ったからです。

国がたまたまの思惑でこれを早く隔離できるか競争させた、という話を聞いて、そのことを行った当時の人たちの神経を疑った。今は特に人権を大切にしよう教育が行われているし、世間もそういった話には敏感なので信じられなかったし、どうしてそんな酷いことができるのか理解できなかった

また、父は、母の父が家族にまで差別されていたこと。自分がハンセン病になったときのことを考えた。ハンセン病にかかった人は、人間不信にはならなかったのか

ハンセン病の話を、大人時代まで忘れず、次の時代に繋げていくようにしたい。

患者だけでなく、患者さんの家族まで苦しめられたというところ。患者さんが療養所に連れて行かれてるのを見た時、どれだけ悲しかっただろうなと思った。

今の日本でのいかに差別がなくなっているかを知って、こころが痛くなった。そして差別された過去に苦しめられている人はいるはずだから、これからそんなことが起こらないように自分たちができることをして、ハンセン病にかかった人たちが生きやすい場所を作るのが大切だと思ひた

ハンセン病治療所は病気を治すための場所ではなく、死んでもらうための場所だったというところ
です。なんでそんな酷い考えになるのか不思議です。お話で言っていた「患者さんもひとりの人」
ということをしかり知って、考えて、こういう間違った知識は捨てるようにしてほしいと思いま
した。ハンセン病というだけでこんなに差別をしていいことではないと思いました。

回復者の人が自分はそこで生きていたんだと証明するために、作品づくりをしていたことにびっく
りした。ハンセン病だからといって人権を無視して差別することで差別された本人はつらいし傷つ
いているのに、家族も差別されて悲しい思いをしていて病気はそこまで恐ろしくなかったのかもし
れないけど、それを恐ろしいものにしたのは全国で感染者を差別した人たちだと思った。

ハンセン病について掘り下げていけば行くほどハンセン病の人たちの気持ちを知って辛かったんだ
ろうなとは思うけどそれでもその気持ちを理解することはできてないかもしれないと思った。でも回
復者のひとがせつかく自分が生きていたことを証明しようとしているんだから、わたしたちもその
気持ちを率先して行かなければならないなと思った。

おじいちゃんや、おばあちゃんにハンセン病をどう思っているのか聞いてみようと思った。

病院内での監禁、子供を産ませないようにすること

今もハンセン病に元々かかっていた人への差別があること。ハンセン病もと患者への差別や患者の
家族が嘘をつかずに暮らせることができたらいいと思いました。

人と違うからって差別をしない。偏見もやめたい。

今でもまだ療養所などで暮らしている人たちがいたり、その建物があったり、療養所で亡くなった
人たちが入るお墓などまであることに少しびっくりした。今日、差別のことについて長く話を聞か
せてもらってすごい差別をされて話が聞いているだけで胸が苦しかった。

ハンセン病が治って、国に謝罪されて、賠償金をもらって、家族にもお金を渡して関わろうとし
ても、ハンセン病の偏見や差別が今もあるからと断られてしまった人がいたことが心に残りました。
家族と関われないのはとても辛いことだし、自分の生きている意味を疑うと思うし、国の政策のせ
いだと憎んだりしてしまうと思いました。国に謝ってもらっても、元ハンセン病患者の人たちの傷
や人生は取り戻せていないと思いました。

ハンセン病にかかった人たちの気持ちや差別をしてしまった人たちの気持ち、家族だったけどそれ
を隠さないといけないようになってしまった人たちの色々な気持ちを知って、これからハンセン病
を知る人に教えていってあげたい。ハンセン病の人たちは主に見た目などで病気だ。と差別され始
めてしまったから、これから生きていく中で見た目での差別は絶対指定はいけないと思った。

大勢の人々に差別されようとも自分が存在していた証を残そうとしていた人たちに対して差別され
ている時点でメンタルはきつと傷ついているはずなのに自分が生きていることに誇りを持っている
ところに感動を覚えました。

今も療養所にいる人たちはどのような思いで過ごしているのだろうかと思った。

ホテルがハンセン病患者を拒否して、それを知った人たちが差別的な文書を書き、そのほとんどが
匿名であったこと。

自分より若い人に、ハンセン病という病気があり差別に苦しんでいる人がいたということを伝えて
いきたいと思いました。

ハンセン病元患者さんたちに匿名で送られてきたハガキを、とても恐ろしく感じた。

元患者さんが勝訴した裁判の内容を知りたい。

病気を理由にして差別をしてしまっていないか。というのが印象に残った。もし自分だったら、と考えることが大切だとわかった。

授業で習っていないことが多く聞けて、ハンセン病はかかっている人だけではなくて、家族にもひがいがかかっていることがつらいことだと思った。

今も続いている差別について印象に残りました。今でも名前を明かすことができなかつたり、療養所から出れない人もいることが、本当にこの人たちは、どのような人生を歩むのか聞いていても、ひどかったのだなと思いました。でも、回復者の中には、差別をされていても自分にも生きる意味があるといろいろなことに挑戦している人たちは、すごいなと感じることができました。ハンセン病で、差別された人、偏見から家を出れない人など今も悩んでいる人が、何人もいることをわすれずに、自分には、何ができるのか、学校生活でも自分と違う人はなんにもいると思うけれど、そんなときには、相手のことを尊重していきたいと思いました。

印象に残ったことは、ハンセン病問題から学ぶことについてのお話です。この話を聞いて、自分にもやれることはやらなきゃいけないと思いました。そして、ハンセン病でつらい思いをした人がいるということを未来へ伝えていきたいと考えました。

ハンセン病に限らず黒人だからという差別があるのをよく聞いたりする。差別などを止めるためには知ることが大事だと思う。だから、歴史的にもどうだったのか知りたい

僕はこれまでハンセン病についてとても差別される病気だということぐらいしか知らなかったけど今回の学習を通して差別には歴史がありその恐怖からたくさんの方が苦しんでいたということを知り、これから伝えて言って差別はしてはいけないということを感じてもらいたいと思った。

この話を聞くまでは、ハンセン病患者(監禁されていた人たち)はハンセン病による手の麻痺などで亡くなっていたのかなと思っていたけれど、扱いが酷くて栄養失調になったり、寒くて凍死してしまったりして亡くなる方が多かったと聞いて、驚いた。

ハンセン病以外にもイタイイタイ病などの、問題もあると思う。私は、そのようなことに目を背けるのではなく、もっと自分のことだと思って考えようと思った。

「ひとりの人」としてハンセン病になってたとしても見ないといけないということが印象に残った。それを聞いて、基本的人権の尊重があるように全ての人があたりまえのように「ハンセン病患者だった」と言えて、社会復帰が出来たら良いと思った。

ハンセン病が治ってもそこに差別があったことを、家族や将来も忘れないように忘れられないように伝えていきたい。そのために、ハンセン病になった人の気持ちをこれからも考えていきたい。

国は文明国になるのにハンセン病が流行っていたら恥ずかしいといっていたけど隠しているほうがいけないと思った

自分のおばあちゃん世代や周りの人でハンセン病について間違った知識を持っている人がいたら正しい情報を教えていきたいと思った

ハンセン病以外にもいろんなことで差別された人たちがいる、そんな苦しんだ人がたくさんいることをわすれないようにする。

今日、聞いたハンセン病の話の家で家族に話したり、機会があったら、長島愛生園などの療養所に行って、もっとハンセン病のことについて知りもう二度と同じ過ちをしないように自分のできることだけでもしていきたいなと思いました。

今はコロナが流行っているが、コロナの後遺症で味覚障害や髪の毛が抜けるなどのことがおきたり、本当はなりたくないのになってしまった人を差別するのではなく、もし自分がかかったらということを考えること・相手を思いやる気持ちが大切だと改めて感じた。

現在ハンセン病が治っても、まだ過去の差別が続いているせいで、810人もの方が療養所にいるということが印象に残った。身の回りで元ハンセン病患者に対する差別があることを感じづらいためであり、だからこそけしておなじあやまちを繰り返さないためにも、忘れないように気をつけな
いといけないと思った。

こういった問題をこれからの社会で絶対に起こさないように差別の醜さや昔あったことを次の世代に伝えていかなければならないと思いました。

両親にハンセン病について聞いて、もっと考えを深めてみようと思いました。

私は監禁、断種・中絶のところが特に印象に残りました。重監房という普通療養所にならないものまであり聞いていてすごく苦しかったです。結婚すると男性は子供ができないように手術され子供が欲しかった患者さんの気持ちを考えると本当にしんどかったです。

ハンセン病だけでなく他の病状でも差別がこわいものがある中で、それ以外の人工的な差別
とがあるかもしれないし、もしそういう事があっても差別をせず、今後の人たちに継承していき
たい

今までに自由無きままに死んだ人たちのためにもこの話を語り継いでいこうと思った。